

平成 27 年度第 3 回 矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会 議事要旨

開催日時：平成 28 年 2 月 4 日（木）午前 10 時 00 分から午後 12 時 15 分まで

開催場所：別海町役場 1 階 101・102 会議室

出席人数：12 名

<会議次第>

1 開 会

2 前回の振り返り

3 議事

- ・議案第 1 号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想）素案について
- ・議案第 2 号 まちづくり構想を考えよう（ワークショップ）

4 閉 会

1 開 会 （司会 総合政策課長）

2 前回の振り返り

アンケート調査で募集した委員 5 名も合流しての開催となった。

議案第 1 号では、アンケート調査結果について、特徴的な部分を掻い摘んで説明し、議案第 2 号では、「まちづくり構想で大切にしたいこと」と題し、2 テーブルに分かれ参考資料の図を用い、ワークショップを実施した。それぞれのテーブルからの「まとめ」の発表がされたが、両テーブルにおいて、同じような話がされており、これからのまちづくり構想を考えて行くうえでは、高齢者と小さいお子さんが一緒に過ごす場や機会、「多世代交流」の重要性、また、施設の「複合化」の必要性について、話されていた。また、基幹産業である「一次産業」がしっかりし、「地元のものがどこで食べられて」、「どこで買い物ができる」ということも必要ではないかという話がされた。

3 議 事

議案第 1 号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想）素案について

事務局

3 年間をかけて策定するまちづくり構想の初年度として基本構想策定を進めているが、今年度の成果品として、たたき台という状況ではあるが、お配りのような冊子にまとめることとしている。

第 1 章から第 6 章まであり、第 1 章は「矢臼別演習場周辺まちづくり構想の目的と位置づけ」。第 2 章では、「別海町及び別海地区の概況」。第 3 章では、「構想対象エリアの現状と課題」。第 4 章では、「構想策定の経緯」。第 5 章では、「アンケート調査の実施」。第 6 章では、「まちづくり構想」となっており、特に第 4 章以降が、これまでの住民懇話会において関わりの深い部分になろうかと思う。

「1 矢臼別演習場周辺まちづくり構想の目的と位置づけ」、1-1 まちづくり構想の背景について、「本町における現状の課題については、様々な要因によるマイナスの影響が考えられるが、そのひとつとして、昭和 38 年から本格的な供用開始となった矢臼別演習場及び昭和 40 年に発足した別海駐屯地の防衛関連施設の存在は、住民生活に様々な影響を与えている。」状況となっている。

また、「これら種々の災害と防衛施設の存在によって生じる町民への影響を最小限に抑え、人口減少・少子高齢化する本町にとって望ましい生活環境を構築するためには、町内にある防衛施設に係る要素を含め、様々な要素を結びつけるまちづくりが必要」となっており、このことから、防衛省の補

助金を活用し、本事業に取り組む背景が記載されている。

1-2 まちづくり構想の目的では、「防衛施設等との関連性を活かし、町民の安心安全な地域社会の構築と質の高い町民生活の維持を目指し、市街地活性化につながることを目的とする。」としている。

1-3 まちづくり構想の位置づけでは、「本町では、第6次総合計画における「笑顔あふれる豊かさ実感のまち べっかい」の実現に向けて、基本目標の中で、「快適で安全なまち」「人を育てる学びのまち」「活力ある産業のまち」を掲げており、これらの目標達成に向けて、市街地の活性化に大きく関わる中小企業の振興や、町民の自主的な地域活動に必要な社会教育の充実、防災体制の整備に対して、包括的な計画策定を行い、整合性の取れた事業の進捗に取り組む」こととしている。

1-4 まちづくり構想の対象エリアについては、基本的には「別海地区」をエリアに設定している。

「2 別海町及び別海地区の概況」ということで、別海町の概況や別海町歴史、気候とその特徴、人口、世帯数等、人口推計等について記載されており、続いて防衛関連施設の概要、自衛隊員等と町民の交流・協力として記載をしている。

「自衛隊員等と町民の交流協力」では、北部方面音楽隊のコンサートツアーや、自衛隊員等の様々なイベント等への協力や清掃活動、米海兵隊による奉仕活動、今年度行なわれたノーザン・レスキューなどを記載している。また、平成26年11月に策定した「別海町市街地活性化計画（別海地区）」について、方針や策定までの取り組み状況について記載をしている。

次に、本構想の上位計画等ということで、町の根幹の計画となる「第6次別海町総合計画」、「別海町防災計画」について記載し、2-4 構想対象エリアの位置づけということで、本町においての中心的市街地が別海地区であるという位置づけと、その状況について記載している。

「3 構想対象エリアの現状と課題」、3-2 構想対象エリアの課題では、「拡大する住宅域の位置づけ」、「市街地のコンパクト化」、「消費購買力の域外流出と商業の活性化」等8点を、別海町市街地活性化計画で整理した課題としてまとめている。

「4 構想策定の経緯」では、まちづくり構想策定の進め方等について記載し、町民参加機会と検討体制、それらの実施状況についてまとめている。なお、現在は、途中の段階のものとなっている。

「5 アンケート調査の実施」では、前回会議でも報告しているので詳細は割愛するが、いわゆる「クロス集計結果」についてまとめている。

「6 まちづくり構想」では、本まちづくり構想のまとめとなる部分として、構想策定の視点や基本的な考え方、方針などについて定めている。ここでは関連計画や皆さんからいただいた意見等を踏まえ、構想策定の視点の整理、基本的考え方と基本方針、まちづくり構想ということでまとめている。

この後、議案第2号の「まちづくり構想を考えよう」で、この第6章の内容確認を行なっていきたいと考えている。

委員

まちづくり構想と、中央公民館や給食センターの建替えというのは、どのように整理し直して意見を出していけばよいのか、迷うところがあるので説明願いたい。

事務局

このまちづくり構想は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」と3年間の構想期間の中で進めていく。元々、町の厳しい財政状況を踏まえたなかで、建替えが必要となる中央公民館或いは給食センターをどのような機能を持たせた施設にするのか、財源を含め検討した結果、この防衛省の補助金を活用するという方針になった。その中の条件として、それらの施設をつくるにあたっては、まちづくり全体としての構想の中で、その建物がどのような役割を果たすものなのか、まちの背景を含めた中で

の位置づけというものを設定してつくっていくというのが、事業としてのルールとなっている。この市街地の中に、その建替えの必要な2つの施設をつくっていくにあたり、まちづくりのなかでどのようなニーズを抱え、それをどのように満たすことができるのか。1年目となる今年については、基本的なまちの性格を踏まえ、今後どのようなまちづくりのもとに、その建物の機能性を持ち合わせていくのかという、その前提部分を今年度確認させていただいている。建設を予定している公民館の建替えと給食センターについては、来年度の基本計画のなかで、防災機能を持ち合わせた性格の施設ということも勘案しながら具体的な議論を進めていく。今年度については、その土台となるまちの構想について計画を立てていくという位置づけになっている。

議案第2号 まちづくり構想を考えよう（ワークショップ）

株式会社 KITABA

まず、構想策定の視点ということで、先ほどご質問があったように、中央公民館や給食センターの建設など具体的な要望があるなかで、それも踏まえそのような施設がこのまちづくり構想の中でどのように位置づけられなければならないのか、どういう視点でまちづくり構想を考えていくのかという視点の整理が必要である。

まちづくり構想の上位計画にある第6次別海町総合計画において、素案では「ひとが輝くために」「まちが輝くために」「みんなのつながりでつくる地域のために」の、3つのみ抜き出しているが、これは前回、前々回と皆さんからいただいた意見を踏まえた結果となっている。

別海町地域防災計画では、「災害発生した時の給水、防疫、食糧供給等災害応急対策に関すること」が考えられていなければならない。また、前回のシール投票で、コミュニティの向上と防災機能、防災意識の向上は密接な関係にあるというお話があり、そうするとこの防災計画での「防災思想の普及に関すること」というのが、関連して考えられなければいけない。

市街地活性化計画のなかでは、「拡大する住宅域の位置づけ」「市街地のコンパクト化」等が、この構想に関連する項目となっている。

（仮称）別海町生涯学習センター建設基本構想の策定にあたってまとめられた答申では、「つどい、ふれあい、つながり、まなびあい～人づくりまちづくりの交流連携拠点」という言葉がまとめられており、これもきちんと踏まえなければならない。

このように上位計画など関連する計画を抜き出し、最後に住民懇話会やアンケート調査の結果からこういった項目が代表的な意見として出ていたということで整理をした。それを短く視点として整理したのが、「輝きつながる視点」、「食糧供給等の災害対応の視点」、「市街地のコンパクト化の視点」、「交流・防災の視点」、「商業の活性化の視点」、「つどい支え合う関係づくりの視点」、「新たな雇用の創出の視点」、「ホール機能充実の視点」、「多機能化・多世代交流の視点」となる。

その視点を包含し、基本構想の考え方を整理し、目指すべきまちの将来像を表す言葉として「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」というテーマを設定した。具体的には、「町民が安心安全に暮らし続けるために、多世代がつながり支え合う関係をはぐくむ、多世代・複合交流拠点を創造します」ということで、これは特に前回の話において、子どもからお年寄りまで多世代がふれあい、交流する場というのが必要であるということ。また、子育て機能や高齢者のサービス機能、商業機能などがバラバラにあるのではなく、ひとつの建物になっているかは別として、色々と関係しあうような位置で考えられていく必要があるというのが、前回のワークショップで両テーブルに共通していたご意見だった。このようなことを踏まえ、多世代・複合交流拠点を創造するという言葉で結んでみた。そして、

先ほどの9つの視点を基本的な考え方として整理すると、次の7つの基本方針となる。

「輝きつながる視点」と「つどい支え合う関係づくりの視点」を包含し、「基本方針1 町民がつながり地域を支える関係づくりを目指します」。

「食料供給等の災害対応の視点」と「交流・防災の視点」を包含し、「基本方針2 災害時の対応力強化に資する食料供給や災害対策の充実を図ります」。

「多機能化・多世代交流の視点」を方針として示したのが、「基本方針3 子供から高齢者まで多世代が交流できる場づくりを目指します」。

「商業の活性化の視点」については、地域でとれたものが地域で買えない状況にあるという話も踏まえ、「基本方針4 地域のことを地域で消費でき、町民の買い物を支える場を創造します」。

離農する方が増えているということで、そういった方が町外に流出するのではなく、また別海町で新しい仕事に就ける、そして暮らし続けることが大事であるといったことがベースにあるのが、「新たな雇用の創出の視点」を基本方針として、「基本方針5 別海でくらし続けるための雇用環境の改善を図ります」。雇用環境の改善を図るというのは、新しく雇用の場の創出のほか、働き方を改善していくという意味もある。

「ホール機能充実の視点」については、「基本方針6 町民が集い、憩うための拠点機能（公民館機能）の充実を図ります」として位置づけている。

最後に「市街地のコンパクト化の視点」として、「基本方針7 市街地のコンパクト化を目指した、効率化と複合化の公共機能整備を進めます」というのを置いている。さらに、基本方針が具体化する手だてというのはどういうことなのか。それが実現すると、どういうまちになるのかというのを整理したのが、「7つの基本方針と目指すべきまちの姿」というものである。基本方針を一つひとつ具体化する手だてとして、どういうものなのかをイメージできるように書いたのが、「具体化する手だて」。それが実現するとどんなまちになるのかというのが「目指すべきまちの姿」となっている。

基本方針1についての具体的な手だてとして、「集い、つながる交流機能の充実」ということになり、それが実現すると「町民がつながる笑顔のまち」が実現するということになる。

基本方針2では、具体化する手だてとして「災害時の食料供給、備蓄機能の整備」をする。それが実現すると、「災害時も安心安全にくらせるまち」が実現する。

基本方針3の具体的な手だてでは、「子育て、高齢者を支える環境整備」をしていく。それが実現すると、「子どもからお年寄りみんなが元気なまち」となる。

基本方針4では、「地域を支える商業空間の充実」が図られると、「農業者も漁業者も活力あるまち」ができる。

基本方針5では、「雇用環境の改善と場の創造」が図られると、「いつまでも暮らせる豊かなまち」になっていく。

基本方針6では、「利便性向上を図る交流拠点の充実」が図られると、「ふれあいが育まれる潤いのまち」が実現する。

基本方針7、「支え合う関係をつくる複合機能の整備」が図られると、「必要なものが身近にある便利なまち」になっていく。

それらをまとめ、まちのなかでこのような取り組みが実現していくと、既存の商店街も活気あるまちになり、別海地区の住宅地も住みよい町になっていく。また、来街者や観光客にも魅力あるまちに変わっていき、公共施設も利用しやすいまちになっていくのではないかというふうに、基本構想の骨格を考えてみた。

基本方針を具現化する手だてのイメージとして、手だてを7つ説明したが、その機能のイメージというのはどのようなものなのか。例えば「集い、つながる交流機能の充実」というのは、子どもから高齢

者、地域の人同士や観光客などの、様々な人が集い、つながり交流できる機能とし、それを空間のイメージとして置き換えると、会議室のようなかたい空間ではなく、もっと屋外でも屋内でも使えるフリースペースのようなものになるのか。或いは研修できるようなスペースも必要かもしれないというように、前段でお話した視点や基本方針、手だて、目指すべきまちの姿なども確認しつつ、この空間のイメージについて皆さんと議論を深めていければと思っている。

まずは、前回同様 5 枚のシールを渡すので、投票していただきたい。

ーシール投票ー

A テーブルは、「集い、つながる交流機能の充実」、「利便性向上を図る交流拠点の充実」が同数で 7 票。「子育て、高齢者を支える環境整備」が 6 票で、「地域を支える商業空間の充実」と「雇用環境の改善と場の創造」が同数の 4 票。「災害時の食料供給、備蓄機能の整備」、「支え合う関係をつくる複合機能の整備」が 1 票という結果となった。

B テーブルでは、「地域を支える商業空間の充実」に 6 票。続いて「雇用環境の改善と場の創造」に 5 票。「災害時の食料供給、備蓄機能の整備」、「支え合う関係をつくる複合機能の整備」が 4 票で、「利便性向上を図る交流拠点の充実」が 3 票。「集い、つながる交流機能の充実」が 2 票で、「子育て、高齢者を支える環境整備」が 1 票という順となり、A テーブルとは違う投票結果となっている。

投票の多かった項目から話し合っただき、投票の少なかった項目まで到達していただければと思う。

ーグループワークー

A テーブルは「集い、つながる交流機能の充実」と「利便性向上を図る交流拠点の充実」から話を始めた。各項目に番号を振り、①、③、⑥、⑦というのは一緒に考えられていなければいけないのではないか、という話になった。空間のイメージは、大きなロビー空間があり、そこに子育て支援のスペースや高齢者のサロンがあり、例えば福祉牛乳を取りに行く際にそこで待っているしながら会話ができる場所。現状として暗い空間とのことなので、もっと明るく開放的な場所にしたら良いのではないかとということ。そうすることで色々な交流が生まれ、つながりができ、子育てしている人を高齢者が見守るという逆のパターンもあったり、支え合う関係ができるということが生まれてくるのではないかとというのが、順番に話し合った結果、共通のイメージとして合わさったものとなった。特徴的だったのは、そこにハード整備だけでなく、きちんとそれをコーディネートやマネジメント、人と人をつなぐだけでなく活動と活動をつなぐというようなことが仕組みとして無いと、場をつくるだけでは駄目ということであった。

ハード整備については、「これはひとつの大きな建物の中に全部押し込まれるかんじになるのか、ならないのか」という話になったとき、マルチメディア館やぷらとなどの既存の施設において、会議室やホールを持っているので、そこと近接させるのか、距離をおくのかという話になった。そういった既存の施設との住み分けや分担として、つくらなくて良いものはつくらないという経済的な考え方の基に、整備を進めていくほうが良いのではないかと。もっとまちなかのことでなく、周辺の公共施設や機能にも目をむけて再編していくことも必要ではないかということだった。大きなハコのなかに色々な機能を詰め込むのではなく、既存施設に近接させる、何かでつなぐ、などのほうが良いのではないかとというのが、こちらの特徴的な意見であった。

雇用や子育て、商業機能についても、実はバラバラではなくてつながっているのではないかと話もされた。単に雇用の場を新しくどんどん増やすというだけではなく、子育てを終えた方が復帰できる、

または継続できる環境も考えられなければならないのでは、という話があった。これも単なる施設づくりではない取り組みも、工夫していかなければならないということも、特徴的な意見であった。

B テーブルで一番多かったのは、「地域を支える商業空間の充実」で、機能としては、道の駅のようなもの、来た人が別海町の良さを実感できるもの、地元の人が本州にいる親戚に何かものを送りたいとき、窓口で受付をしてもらえるような機能が良いのではないかとのことだった。場所は中央公民館とは別の建物が良いのではないかという意見があり、他の道の駅では、商業施設やホールと一緒に建物に入っているところもあり、同様に複合化させれば良いのではないか。その中の機能として、雇用にも関わってくるものだが、若い方の手づくりのものが売れる場所、チャレンジショップのような機能も持たせたら良いのではないか、といった意見が出た。

次に多かったのが、「雇用環境の改善と場の創造」。例えば現在、農協の青年部さんではイベントや期間限定で〇〇バーガーというものをつくっているそうだが、チャレンジショップがあれば、1週間限定でも場所があることで、もっと色々な方に知ってもらえるようになるのではないか。また、雇用環境として、ふるさと納税もやっているのので、別海高校を卒業し大学などに出て戻ってきたとき、起業したい人に補助金として還元するような仕組みがあると、もっと雇用が促進され、産業が盛り上がるのではないかという意見があった。

3 番目に多かったのが「支え合う関係をつくる複合機能の整備」。町内の色々な場所に中央公民館、ふらと、マルチメディア館などが分散しているので、今は点のものを線にして、面にするべきだろうという意見や、せっかくの町全体を考える機会なので、次の世代のことを考えたときに、今集約をしておいたほうがランニングコストを考えるうえでも良いのではないかということ。場所としては、点と点である中央公民館とマルチメディア館をつなぎ、その間の通りを時間で歩行者天国などにすると、それが面になり、地域として複合的な機能を持たせることができるのではないか。さらにそこにチャレンジショップがあると、若者がカフェを出店したりできるのではないかということ。ホールについては、マルチメディア館には150席ほど。中央公民館には600席ほどだが、のど自慢ができるくらいの規模として1000席くらいあれば、大きなイベントも別海でできるようになり、色々な方を集めることもできるのではないかという意見だった。

最後に「災害時の食料供給、備蓄機能の整備」。食料の備蓄は、やはり長期で保存しなくてはならないので、その機能としては、短い間だけではなく避難生活が長引いたときにも対応できるような機能をもたせること。災害時には食べ物のほか、電気や水道のことも心配なので、発電機や防火水槽、飲料水の水槽、あとは川の水をろ過して飲料水に変えられるような装置というのもあったら良いのではないかという意見があった。

本日で3回目の懇話会だが、たくさんのご意見をいただきありがとうございます。なんとか方針や手だて、考え方を整理するところができたと考えている。次年度に向けて考えていかなければいけないようなお話もいただいたように思うので、これを整理して修正・加筆しながらパブリックコメントに向けて作業を進めてまいりたい。引き続きよろしくお願いいたします。

4 閉会